

(2) 中学校

ア 指導計画の作成

○ 3 学年間を見通した全体的な指導計画 [学習指導要領解説 P72]

- ◇中学校3年間を通して、いずれかの分野に偏ることなく授業時数を配当する。
- ◇内容Aの(3)エ、内容Bの(3)ウ、内容Cの(3)イについては、これら3事項のうち、1又は2事項を選択して履修させる。(「生活の課題と実践」)
- ◇内容Aの(1)自分の成長と家族については、小学校家庭科などの学習を踏まえ、中学校における学習の見通しを立てさせるガイダンス的な内容として、第1学年の最初に履修させる。

○ 配当する授業時数及び履修学年 [学習指導要領解説 P73]

- ◇内容AからDの各項目に配当する授業時数及び履修学年については、地域、学校及び生徒の実態に応じて、各学校において適切に定める。

題材とは、教科の目標及び各分野の目標の実現を目指して、各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織したもの

○ 題材の設定 [学習指導要領解説 P74]

- ◇小学校における家庭科及び図画工作科等の関連する教科の指導内容や中学校の他教科等との関連を図り、教科のねらいを十分達成できるよう基礎的・基本的な内容を押さえたもの。
- ◇生徒の発達の段階に応じたもので、興味・関心を高めるとともに、生徒の主体的な学習活動や個性を生かすことができるもの。
- ◇生徒の日常生活とのかかわりや社会とのつながりを重視したもので、自己の生活の向上とともに家庭や地域社会における実践に結び付けることができるもの。

○ 道徳の時間などとの関連 [学習指導要領解説 P75]

- ◇道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、技術・家庭科の特質に応じて適切な指導をすること。
- ◇学習活動や学習態度への配慮、教師の態度や行動による感化を意識する。
- ◇技術・家庭科の目標と道徳教育との関連を明確にする。
 - 「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得する」
 - 望ましい生活習慣を身に付けるとともに、勤労の尊さや意義を理解することにつながる。
 - 「進んで生活を工夫し創造しようとする態度を育てる」
 - 家族への敬愛の念を深めるとともに、家庭や地域社会の一員としての自覚をもって自分の生き方を考え、生活をよりよくしようとするにつながる。

イ 内容の取扱い

○ 実践的・体験的な学習活動の充実 [学習指導要領解説 P76]

◇実践的・体験的な学習活動を重視し、仕事が楽しいと感じたり、自分が作品を完成させることができたという達成感を味わったり、さらに、失敗や困難を乗り越えやり遂げたという成就感を味わう学習となるよう工夫する。

◇生徒が学習の中で習得した知識と技術を生活の場で生かせるよう、生徒の実態を踏まえた具体的な学習活動を設定する。

発達の段階や学習の
ねらいを考慮

製作、整備、操作、調理などの実習や
観察・実験、見学、調査・研究などを設定

○ 問題解決的な学習の充実 [学習指導要領解説 P77]

◇生徒自らが課題を発見し、習得した知識及び技術を活用し意欲をもって追究し、解決のための方策を探るなどの学習を繰り返し行い、問題解決能力を育成する。

「問題解決能力」とは
生活を営む上で生じる課題に対
して、自分なりの判断をして課題
を解決することができる能力

- 課題に対して様々な角度から考える思考力
- その思考力を総合して解決を図る判断力
- 判断した結果を的確に創造的に示すことのできる表現力等

○ 家庭や地域社会との連携 [学習指導要領解説 P77]

◇生活を工夫し創造する能力と実践的な態度をはぐくむための指導を充実させる。

◇家庭や地域社会における身近な課題を取り上げて学習したり、学習した知識と技術を実際の生活で生かす場面を工夫したりするなど、生徒が学習した知識と技術を生活に活用できるよう指導する。

○ 学習指導と評価 [学習指導要領解説 P78]

◇生徒の特性や生活体験等の把握、個に応じた題材の設定、生徒による学習課題や学習コースの選択、学習形態の工夫について配慮する。

◇指導計画の立案の段階から評価計画を組み込み、評価を学習指導に生かす。評価場面においては、深い生徒理解と生徒に対する具体的な言葉かけなどにも配慮する。

○ 安全管理について [学習指導要領解説 P80]

◇施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意する。

※技術・家庭科における「言語活動の充実」のとりえ

○ 知識・技能の活用など思考力・判断力・表現力等を育む学習活動の充実

- (1) 体験から感じ取ったことを表現する。
 - ・言葉や作品で表現する
- (2) 事実を正確に理解し伝達する。
 - ・観察の結果を記述・報告する
- (3) 概念・法則・意図などを解釈し，説明したり活用したりする。
 - ・衣食住や健康・安全などに関する知識を活用して自分の生活を管理する
- (4) 情報を分析・評価し，論述する。
 - ・生活情報などを調べ，分析し，根拠に基づき説明する
- (5) 課題について，構想を立て実践し，評価・改善する。
 - ・ものづくりなどにおいて構想をねり，創作活動を行い，その結果を評価し，工夫・改善する
- (6) 互いの考えを伝え合い，自らの考えや集団の考えを発展させる。
 - ・健康，快適な生活の方法を伝え，考えを深める

各分野の指導については，衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や，生活における課題を解決するために言葉や図表，概念などを用いて考えたり，説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮するものとする。

実習等の結果を整理し考察する学習活動の充実

例えば…

- ・調理実験の結果を正確に記述し考察する。
- ・調理がうまくいった理由やそうでなかった理由を食品の調理上の性質を基に考え発表する。
- ・幼児と触れ合う活動の後に，体験から感じ取ったことをまとめて考察し，発表する。
…などの学習活動を充実させる。

体験したことが客観性や科学性を伴う理解となる。

生活における課題を解決するために言葉や図表，概念などを用いて考えたり，説明したりするなどの学習活動の充実

例えば…

- ・食事点検や住まいの安全点検などから
問題点や改善点などを考える場面，
課題解決のために計画を立てる場面，
解決したことをまとめ，発表する場面で，
献立表や室内の安全マップなどの図表を用いて自分の考えを発表する。
…などの学習活動を充実させる。

【参 考】「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力，判断力，表現力の育成に向けて～
中学校版 平成 22 年 5 月 文部科学省」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1306108.htm

エ 生活の課題と実践

(指導計画の作成)

[学習指導要領解説P71]

1 (1) …前略… その際、家庭分野の内容の「A家族・家庭と子どもの成長」の(3)のエ、「B食生活と自立」の(3)のウ及び「C衣生活・住生活と自立」の(3)のイについては、これら3事項のうち1又は2事項を選択して履修させること。

学習した知識と技術などを活用し、これからの生活を展望する能力と実践的な態度をはぐくむことの必要性から、「生活の課題と実践」に関する指導事項を設定している。具体的には、「A家族・家庭と子どもの成長」の(3)のエ、「B食生活と自立」の(3)のウ及び「C衣生活・住生活と自立」の(3)のイについては、生徒の興味・関心等に応じて1又は2事項を選択して履修させることとしている。

そのねらい

「生活の課題と実践」については、家族・家庭や衣食住の学習に関心をもち、生活の課題を主体的に捉え、実践を通してその解決を目指すことにより、生活を工夫し創造する能力や実践的な態度を育てることをねらいとしている。

指導のポイント

指導に当たっては、各項目で学習した内容を基礎とし、生徒が興味・関心等に応じて家族・家庭や衣食住に関する課題を設定し、主体的に実習や調査などの学習活動に取り組めるようにする。また、計画、実践、評価、改善という一連の学習活動を重視し、問題解決的な学習を進めるようにする。実践については、家庭や地域社会との連携を図り、生徒を取り巻く環境に十分配慮し、効果的に行えるよう工夫する。さらに、計画及び実践後の評価、改善については、グループで検討したり、発表の機会を設けたりして実践の成果や課題が明確になるように配慮する。

「生活の課題と実践」についてのQ&A

Q1 履修する時期はいつでもよいのですか？

生徒の興味・関心等に応じて、課題を設定することが大切です。そして、学習した知識と技術などを活用し、主体的に実習や調査などの学習に取り組めるように配慮しましょう。

Aの内容を例に挙げて考えてみます。学習の途中で幼児の生活や特徴を知ることによって、「幼児に役立つ物を作ってみたい」という学習課題が成立したならば、そこで選択事項の学習を取り入れることも可能です。また、Aの内容の全ての学習が終わった後で、「幼児や地域との付き合い方についてもっと知りたい」という課題意識を抱かせ、幅広く実践内容を考えさせることも可能です。

体験や実践を含めるとすると、日々の授業の中だけでは実現しにくいと考えられますので、長期休業を利用した学習計画を組むとよいでしょう。また、全ての学習が終了して3年生で設定することも可能ですが、評価を考え適切な時期を選びたいものです。

Q 2 家庭での実践は、見届けることができないので評価に困ります。何を評価したらよいですか？

授業で身に付けた知識や技術を使って、生活における課題を解決していく学習です。従って、「生活の課題と実践」における評価の観点としては、それぞれの内容において、課題を主体的にとらえ、製作や調査などの計画と実践に取り組もうとしているかという「生活や技術への関心・意欲・態度」と、課題を見付けその解決を目指して製作や調査、活動などの計画を自分なりに工夫しているか、製作や調査、活動などの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしているという「生活を工夫し創造する能力」について評価をします。

Q 3 どのような学習をすればよいですか？

問題解決的な学習を取り入れましょう。計画、実践、評価、改善の一連の学習活動を通して、生徒の主体的な学びを促進できるように配慮します。そのためには、授業を進めながら、生徒の課題意識を引き出すような教師の意図的な指導が大切です。

また、家庭科の言語活動の充実について、生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動の充実が挙げられています。この学習の終わりには、実践内容をまとめて伝える時間を作り、言語活動の充実を意識した授業を取り入れましょう。